









初回の調停期日について

初回の調停期日は、おおむね、以下のように進みます（場合によっては、柔軟に変更しながら進めることもあります。）。調停は、あくまで当事者による主体的な問題解決の手段です。限られた時間枠のなかで、効果的に話し合いを進め、争いごとを解決するために、あらかじめ進行を頭に入れて、よく準備をしておいてください。

プロセス	調停委員会の聴取	内容・ポイント
言い分の確認 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> 申立人から聴取 (約30分) </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; background-color: #cccccc;"> 相手方から聴取 (約30分) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●調停手続について調停委員会から説明をした上で、調停で解決したい課題、対立点、解決の方法やその理由などについて、詳しくお聞きします。 ☆他方当事者や過去への不満ばかりではなく、何をどう解決したいか、なぜそれが大事なのかなどを上手く説明できるように、話す内容を前もって考えておきましょう。
対立点や課題の明確化と共有化 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> 申立人から聴取 </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; background-color: #cccccc;"> 相手方から聴取 </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ●お互いの言い分やその理由がどのようなものを、調停委員会を通じて伝えあって、言い分の一致点と不一致点を明らかにした上で、それぞれの言い分をどうするか、改めて考えてもらいます。 ●対立点が複数にわたる場合、どの問題から解決を図るかなど、調停の進行方針を明らかにします。 ☆他方当事者にはどのような言い分がありそうか、その場合はどうするかなどを、初回の調停期日の前に、考えてみましょう。 ☆お互いの言い分の一致点や不一致点を踏まえ、改めて、自分にとって何が大事で、どの点は譲ってもよいかなどを、よく吟味しましょう。
解決策の検討と合意形成 		<ul style="list-style-type: none"> ●対立点が少ない場合や合意ができそうな場合は、初回期日から、合意に向けた解決策について話し合う場合があります。 ●調停委員会から、意見や解決案をお伝えする場合があります。 ☆幅広い解決案を、柔軟に検討しましょう。
次回期日の準備 	<div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> 双方立会 手続説明 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ●当日の成果、対立点、次回期日までの課題、進行予定などを、調停委員会が説明します。この説明は、必要に応じて当事者双方立会いのもとで行います。 ☆初回の調停期日の後には、話し合った内容を振り返り、次回期日までの課題について検討したり、提出資料等を準備しましょう。